

## 令和2年度 学校経営計画表

## 1 学校の現況

学校番号	66		学校名	茨城県立牛久栄進高等学校				課程	全日制		学校長名	宮本 順紀				
副校長名	中島 宣義			教頭名	木村 和広					事務室長名	吉田 孝則					
教職員数	教諭	59	養護教諭	1	常勤講師	3	非常勤講師	2	実習教諭	1	事務職員	4	技術職員等	4	合計	78
生徒数	小学科	1年		2年		3年		合計		合計クラス数						
		男	女	男	女	男	女	男	女	24						
	普通科	134	186	139	177	145	167	418	530							

## 2 目指す学校像

技術革新やグローバル化、高齢化により社会環境の変化が激しさを増す社会を柔軟に生き抜き、新しい価値を創造するのに必要な、自主自律の態度と豊かな人間性を身につけた、進取の気概あふれる創造性豊かな青年を育てる学校

## 3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
教科指導	生徒それぞれの教育的ニーズに応じ、単位制の特長を最大限に生かした教育課程の編成、選択科目の講座の開講に努めている。「1分を大事にする授業」を意識し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、年次・教科で指導の改善に取り組んでいる。また、ICT機器等を積極的に活用し、教育課程の整備を推進している。	教員それぞれの授業内容・教授法に関する研究・研修をさらに進める必要がある。そのために、校内での教員相互の授業参観及び校外研修のフィードバックに加え、教科による先進校視察の実施が肝要である。また、主体的な学びを促すため、ICT機器の効果的な活用を図りたい。
特別活動	様々な学校行事への取り組みにおいては、生徒たち全員が大変積極的に取り組んでいるが、生徒会や委員会活動への自主的な参加はまだ十分とは言えない。部活動は加入率が高く、運動部及び文化部ともに、全国大会や関東大会など、よりレベルの高い大会への出場を目標にして活発に行われている。	生徒会・常置委員会、部活動の存在意義とその必要性について理解を深めさせ、生徒の自己管理能力を高めるとともに、生徒の自主性を育むために、自ら考えて積極的に行動する力の育成をどのように図っていくか。
生徒指導	基本的な生活態度は身に付いており、礼儀正しく真面目な態度であるが心因性の悩みを抱える生徒もおり、教育相談等を必要とする生徒は少ない。また、交通事故や不審者遭遇等の発生件数は減少傾向にあるが今後も安全教育の徹底が求められる。	生徒同士の人間関係形成能力や規範意識の更なる向上、及び課題を抱える生徒の早期発見及び保護者・関係機関との連携を如何に図るか。生徒に危機察知及び回避能力等を如何に身につけさせるか。
進路指導	ほぼ全員が4年制大学への進学希望であり、より高い進路目標の実現に向けて、個別面談を充実させるなどきめ細かな指導を行っている。令和2年春の国立大学合格者数は現役126名で、京都大学、東京工業大学、東京外国語大学など難関大学への合格者も輩出した。	一人一人の生徒の進路実現に向けて、如何にして学校全体における組織的協働体制を確立し、国立大学120名（うち難関国立大学20名）以上の合格を実現し、さらには如何に質的向上を図るか。

## 4 中期的目標

- 1 『活力ある進学校』・・・ 一人一人の個性と創造性を最大限に伸ばす、『活力ある進学校』を目指す。
- 2 『個に応じた学習指導』・・・ 単位制のシステムを生かして、個に応じた、より深い探求学習を展開する。
- 3 『自主自律の人づくり』・・・ 主体的に行動し、自分の未来を自分自身で拓く、『自主自律の人づくり』を目指す。

## 5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
教科指導 ー主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業展開ー	ア 新学習指導要領に対応した、単位制のメリットを生かす教育課程の編成及び主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業の展開により、生徒の学力向上を図る。 イ カリキュラムマネジメントの視点から教科を越えた協働体制を構築し、「チーム栄進」として高水準の教育活動を実践する。
特別活動 ー積極的に参画する活動の促進ー	ア 生徒会活動、部活動、学校行事をとおして自主的精神を養い、行動力を培うとともに、より良い人間関係の形成を図る。 イ キャリアパスポートを活用して自己理解を深め、生徒が自己の良さを生かし、自己肯定感を得られるようにする。 ウ 生徒同士、教職員と生徒が相互に敬意を持って学校行事などに参加し、活力ある学校づくりを推進する。
生徒指導 ー社会的責任を自覚し、良識ある行動のとれる生徒の育成ー	ア 成人年齢の18歳への引き下げを視野に入れ、学校生活全般に於いて生徒の規範意識の高揚と道徳的実践力の向上を図り、自律的で調和のとれた生徒を育てる。 イ 他者を尊重する態度を養い、生命の尊さを認識させるとともに、安全教育を重んじて生徒の危機察知及び危機回避能力を高め、事故やいじめの未然防止に努める。
進路指導 ー生徒一人一人の進路希望の実現を目指した丁寧な指導ー	ア 教員一人一人が進路指導力を高め、生徒の進路希望を高い次元で実現できるよう全教員で研鑽に努める。 イ 各年次や各教科と「e-Top推進室」が連携し、難関大学への進路希望実現に向けて情報提供及び学習指導の充実を図る。
国際理解教育の推進 ー国際交流と海外派遣ー	ア 国際交流事業を通じて視野を広め、世界各国の文化への理解を深めることで、グローバル社会で活躍する人材を育成する。 イ 海外派遣等を実施し、体験をとおして、自国の文化の理解を深め、異文化を理解・尊重する国際協調の精神を育てる。
保護者及び地域社会との連携 ー地域に開かれた学校づくりの推進ー	ア 各種メディアを活用し、本校の教育活動や学校情報を積極的に発信する。 イ 保護者と学校が連携を密にし、生徒の健全育成と進路希望の実現に向けて協働・支援する。 ウ オープンハイスクールや各種説明会、中学校訪問をとおして、中学生や地域社会に本校についての理解を更に深めてもらう。 エ 地域との連携を強化して、地域活動等にも積極的に協力し、地域社会の期待に応え、信頼される学校作りに努める。
働き方改革の推進 ー働きがいのある職場づくりー	ア 国や県の施策を踏まえ、ワークライフバランスをとりながら、教職員が自らの指導力を高め、教育の質の向上が図れるよう、働き方改革を推進する。